

2024（令和6）年度

# 事業報告書

自 2024年4月 1日

至 2025年3月31日

公益財団法人日本デザイン振興会

## 2024年度事業報告書 サマリー

2024年度は、2023年に策定したパーパスである「デザインを、一人ひとりの力に。」と、これに伴って策定した3つのアクションプランの計画着手および実行スタートの年となった。かねてよりJDPは、デザイン・カウンシル機能※を持つことが課題であったが、その中核となる「人材育成」および「調査研究」の機能強化は、アクションプランの内容とも合致しており、具現化に取り組んだ。

また、グッドデザイン賞の役割の強化と魅力の向上については継続的に取り組んでおり、2024年度はステークホルダーからの意見を踏まえ、大賞の選出方法の見直しやメッセージ発信の強化などを実施した。

### 1. アクションプランの進捗

#### ① Design Playground（デザインで遊ぶ）

人材育成事業の一環として、デザインの楽しさを体験し、気軽に親しめる機会を創出することを掲げ、ワークショップ・プログラムの開発を当初検討したが、継続性や横展開の可能性に困難が発生することが予想された。このため、学校教育というインフラの中にデザインを取り入れていく可能性を模索するべく、2024年度は有識者からのヒアリング、様々な教育現場の見学、デザイナーと教育関係者のワークショップを実施し、2025年度からの実行計画を策定した。

（事-P.21）

#### ② Design Institute（デザインを探求する）

デザインが果たしている役割の可視化を試みる研究として、一橋大学が続けてきているデザインKPI調査に共同研究者として参画した。企業内のデザイン部門が他の部門からどのような評価を受けているかを数値化しようとするもので、過去に2回実施してきているが、3回目からは当会も共同研究者として分析を行い、発表する予定である。

（事-P.20）

デザインの研究・振興に携わる人々を支援するため、「デザイン助成プログラム」も立ち上げた。初年度は募集期間が短かったが、研究で7件、振興で44件の応募があり、それぞれ2件が採択され、この4月に助成金を支給、早速活動を始めている。1年間の成果は来年6月発表の予定。（事-P.20）

#### ③ Design from Japan（デザインを世界に発信する）

タイのライフスタイル見本市「Style Bangkok」に初出展し、日本の優れたデザインをアピールする場となったとともに、グッドデザイン賞の受賞者に東南アジア市場への進出の機会を提供した。（事-P.24）

また、グッドデザイン賞事業を中心としたJDPの活動内容を、外国語の媒体を活用して多言語発信を行なった。

（事-P.11）

### 2. グッドデザイン賞事業の運営

2024年度は、グッドデザイン大賞の選出については専門家による評価としての性格を強めるため、金賞全てを大賞候補として、投票は審査委員と受賞者のみとした。一般の関心を把握するために、受賞展来場者向けイベントとして「みんなの選んだグッドデザイン」を実施し、一般投票を行なった。（事-P.3）

審査から見えてくる潮流を発信するプロジェクトである「フォーカス・イシュー」は、これからの社会に求められる具体的な提言を6つに集約し、デザインハブでの展示を通して実際の事例を見せながら、トークイベントなどを複数回開催して理解を深める機会を提供した。（事-P.3 および 事-P.22）

また、デザインの範疇が広がり、受賞内容も多様化するにつれ、グッドデザイン賞が現在、何を目指し、何を評価しているかについて疑問とする意見も寄せられてきていたため、それらの点を確認するべく、受賞企業、審査委員、理事・評議員など多方面のステークホルダーへのヒアリングを実施した。その結果、グッドデザイン賞は幅広い分野を含む国際的に開かれた賞であること、総合的な観点を持つことなど、これまでの方向性についてはその妥当性が確認されたが、賞の性格をわかりやすくするため、「金賞」「大賞」などの特別賞の選出の方法と位置付けを見直し、審査委員の意志が反映され、受賞者にとってもわかりやすい形となるよう2025年度の開催要綱や応募要領・審査要領に反映させた。

※「我が国の新・デザイン政策研究」（2022年4月 経済産業省 デザイン政策室/三菱総合研究所）において、デザイン・カウンシルの機能として「政策提言」「政策推進」「人材育成」「調査研究」「表彰」「情報発信」が挙げられている。

# 公益目的事業 1

(グッドデザイン賞に関する応募、審査、受賞対象の発表、表彰に係る事業)

## 1. グッドデザイン賞事業

2024年度グッドデザイン賞は、昨年度から引き続き審査委員長に齋藤精一氏、審査副委員長に倉本仁氏、永山祐子氏を迎え、正副委員長3名体制で臨んだ。テーマは「勇気と有機のあるデザイン」とし、グッドデザイン賞の審査の視点（人間・産業・社会・時間）に加えて、従来の慣習や既成概念にとらわれずに、一步踏み出す志を持ってデザインに取り組んでいるかどうかを問うた。このテーマによって、モノだけでなく、プロセスや思考にもデザインが求められる現代において、個々の具体的な課題解決に貢献し、生活をより美しくするデザインを重視する姿勢を示した。



### ① 応募と受賞

2024年度グッドデザイン賞は4月1日に募集を開始した。応募期間中は、グッドデザイン賞の理念や応募方法を解説する説明会や個別相談会をオンラインで実施したほか、国内8箇所で開催した。また、審査の視点を審査委員自らが解説するセミナーを計3回開催した。なお、2024年1月に発生した能登半島地震からの復興を支援する目的で、石川県からの応募については、審査費用などを免除する特例措置を設けた。

5,773件のデザインに対して審査を行い、10月16日に1,579件の受賞およびベスト100ならびに金賞、グッドフォーカス賞の特別賞を発表した。また、11月5日にグッドデザイン大賞を発表した。



審査対象数：5,773件

受賞数：1,579件

受賞企業数：1,142社

#### 特別賞の内訳

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）：1件

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）：19件

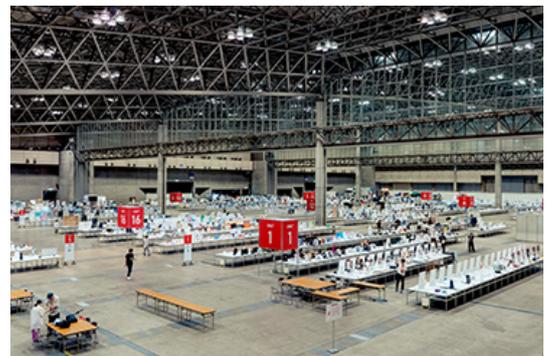
グッドフォーカス賞 [新ビジネスデザイン]：3件

（経済産業省 大臣官房 商務・サービス審議官賞）

グッドフォーカス賞 [技術・伝承デザイン]：3件（中小企業庁長官賞）

同 [地域社会デザイン]：3件（日本商工会議所会頭賞）

同 [防災・復興デザイン]：3件（日本デザイン振興会会長賞）



グッドデザイン賞二次審査会場（幕張メッセ）

### ② 審査体制

多様な応募対象を適切に審査するため、国内外の様々な領域の専門家を迎え、総勢101名の審査委員会となった。この中には昨年度に引き続き迎えたマネジメントレベルのインハウスデザイナー2名も含まれる。応募情報に基づいた一次審査、現物もしくは代替物に基づいた二次審査、および特別賞候補としての「グッドデザイン・ベスト100」選考、特別賞審査の最終プロセスとして、「ベスト100プレゼンテーション審査」および特別賞審査会を実施した。



グッドデザイン賞二次審査会

### ③フォーカス・イシュー

フォーカス・イシューは、グッドデザイン賞受賞対象の中から、今後の社会におけるデザインの役割と可能性を見出す取り組みである。10年目となる2024年度は、昨年度に引き続き正副委員長3名が自らディレクターとなり、外部から文化人類学者、経営者、メディア編集者をリサーチャーとして招き、計6名が応募作品を横断的に見て、デザインの役割と可能性について思索を重ねた。最終的にこれからの社会に求められる具体的な行動を提案する6つの「提言」としてまとめ、全44ページによるレポートとして公開した。また、2025年3月より東京ミッドタウン・デザインハブで「はじめの一步から ひろがるデザイン展 - グッドデザイン賞2024フォーカス・イシュー -」を開催。6つの提言とそれぞれの事例としてあげられた最新のグッドデザイン賞受賞デザインを中心に展示を実施した。

#### ■2024年度フォーカス・イシュー・ディレクター

齋藤精一（2024年度グッドデザイン賞審査委員長）

倉本仁（2024年度グッドデザイン賞審査副委員長）

永山祐子（2024年度グッドデザイン賞審査副委員長）

#### ■2024年度フォーカス・イシュー・リサーチャー

太田直樹（共創パートナー・経営者）

中村寛（文化人類学者・デザイン人類学者）

林亜季（編集者・記者・経営者）

### ④グッドデザイン・ベスト100

すべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、特に高い評価を得た100件を「グッドデザイン・ベスト100」として選出した。これらは、グッドデザイン大賞や金賞などの候補になるとともに、今後の各分野を先導する起点となりうるデザインに位置づけられるものである。

### ⑤グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は、すべての受賞デザインの中から1件が選ばれ、テーマ性・時代性・社会性などの面でその年度のシンボルとなるデザインとして位置付けられる。2024年度は金賞受賞対象20件全てを大賞候補とし、大賞選出の方法を、一般投票は行わず審査委員と受賞者のみによる投票へと変更した。10月16日に金賞20件を大賞候補として発表。その後審査委員および受賞者によるオンライン投票が行われ、11月5日の受賞祝賀会において株式会社ジャクエツの「RESILIENCE PLAYGROUND プロジェクト」が2024年度グッドデザイン大賞として発表された。

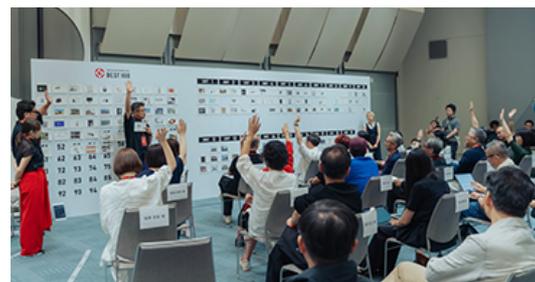
### ⑥みんなの選んだグッドデザイン

グッドデザイン大賞の選出方法の変更にとともに、受賞展会場において一般来場者のデザインへの関心を高める機会を提供するため、投票イベントとして「みんなの選んだグッドデザイン」を実施した。金賞20件を対象に受賞展来場者および受賞祝賀会来場者の投票によって選出を行い、社会福祉法人聖救主福祉会/NPO法人地域で育つ元気な子/JAMZAの「深川えんみち」が選出された。

事-P.3



フォーカス・イシュー・レポート



ベスト100選考会



大賞「RESILIENCE PLAYGROUND プロジェクト」



みんなの選んだグッドデザイン「深川えんみち」

## ⑦GOOD DESIGN EXHIBITION 2024

受賞プロモーションのメイン企画として、2024年度グッドデザイン賞受賞デザイン全件展示、「グッドデザイン・ベスト100」特別展示、ロングライフデザイン賞受賞展示、「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」のポップアップショップ出店、タイのデザイン賞の特別展示、審査委員や受賞者によるトークイベントなどを実施した。また、「みんなの選んだグッドデザイン」投票ブースを設け、投票を受け付けた。

会期：11月1日～5日

会場：東京ミッドタウン各所

総来場者数：21,865人

会場デザイン：芦沢啓治建築設計事務所

グラフィック：6D



GOOD DESIGN EXHIBITION 2024会場風景

## ⑧受賞祝賀会

東京都江東区の東京ガーデンシアターに受賞者を招き受賞祝賀会を実施した。グッドデザイン大賞の発表とともに特別賞各賞の表彰、および「みんなの選んだグッドデザイン」の発表などを行った。

会期：11月5日

会場：東京ガーデンシアター

参加者：2,380名



受賞祝賀会ステージ（東京ガーデンシアター）

## ⑨私の選んだ一品 2024展

2024年度の受賞デザインから、全103名の審査委員（ロングライフデザイン賞審査委員含む）が選んだお気に入りの「一品」87点とメッセージを3期に分けて紹介。第1期では、プライベートな生活や趣味のパートナーとしてのデザイン、第2期では、活動や産業を支える縁の下の力持ち、第3期では家族や地域、こころざしを同じくする人たちを後押しするデザインを展示した。

会期：第1期 10月16日～29日

第2期 10月31日～11月12日

第3期 11月14日～27日

会場：GOOD DESIGN Marunouchi



私の選んだ一品展（GOOD DESIGN Marunouchi）

## ⑩受賞年鑑出版

2024年度受賞デザイン全件を掲載した受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2024』を、2025年3月に発刊した。

仕様：A4変形判 / 上製本 / 1,060ページ

アートディレクション：天宅 正、本間 洋史



受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2024』

## <資料>グッドデザイン大賞・金賞・特別賞

### グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

- ・遊具研究プロジェクト RESILIENCE PLAYGROUND プロジェクト/株式会社ジャクエツ

### グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）

- ・介護用洗身用具 スイトルボディ SWB-1000JP/株式会社シリウス
- ・教科用図書 「くらしに役立つ」シリーズ/株式会社ADDIX
- ・多機能オーディオレコーダー teenage engineering TP-7 field recorder/株式会社メディア・インテグレーション
- ・レンズ交換式デジタル一眼カメラ α9 III/ソニーグループ株式会社+ソニー株式会社
- ・Laptop PC ASUS Zenbook Duo (2024)/Asustek Computer Inc.
- ・ナノインプリント半導体製造装置 FPA-1200NZ2C/キヤノン株式会社
- ・半導体製造装置 Adastra/キヤノンアネルバ株式会社
- ・1.5T超電導MRIシステム ECHELON Smart ZeroHelium/富士フイルム株式会社
- ・日中放射冷却素材 SPACECOOL/SPACECOOL株式会社
- ・自動倉庫ソリューション ラピエタASRS/ラピエタロボティクス株式会社
- ・障害者シェアハウス+シェア店舗 はちくりはうす/株式会社ブルースタジオ+竹村真紀+NPO法人はちくりうす
- ・集合住宅 天神町place/株式会社 寿企業+有限会社 伊藤博之建築設計事務所
- ・多世代共生の複合型福祉施設 深川えんみち/社会福祉法人 聖救主福祉会+NPO法人 地域で育つ元気な子+JAMZA
- ・CACP "Designing?" CACP "Designing?"/YIIIIE Co., Ltd.
- ・再生処理プロダクトブランド SALWAY/株式会社名優
- ・雑誌 プラグマガジン/有限会社サーブ
- ・流域地図 YAMAP流域地図/株式会社ヤママップ
- ・ウェイトマネジメント事業 WOOMS/小田急電鉄株式会社
- ・新しい教育のあり方 スタディツアー～地域と生徒の未来創造の旅～/学校法人新渡戸文化学園

### グッドフォーカス賞【新ビジネスデザイン】（経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞）

- ・患者が主体となる透析の仕組み セルフ透析システム/alba lab 株式会社+医療法人社団 Oasis Medical
- ・輸送用車両機器 スワップ冷凍バンボデー/日本トレクス株式会社
- ・高齢者向けデザイン付き嚥下食 クックデリのソフト食プレミア/クックデリ株式会社

### グッドフォーカス賞【技術・伝承デザイン】（中小企業庁長官賞）

- ・メガネ型ウェアラブルデバイス オートフォーカスアイウェア ViXion01/ViXion株式会社+有限会社nendo ほか
- ・重心バランス補正機能付き靴下 ケアソク ととのえる/株式会社山忠
- ・杖もしくは歩行支援具 パラケイン/シュポーン株式会社

### グッドフォーカス賞【地域社会デザイン】（日本商工会議所会頭賞）

- ・事務所 さくらんぼ畑のオフィス/大西麻貴+百田有希/o+h+株式会社Otias
- ・公共空間活用、マーケット IKEBUKURO LIVING LOOP/株式会社nest+株式会社サンシャインシティ ほか
- ・醸造所(ワイン) 南三陸ワイナリー/南三陸ワイナリー株式会社

### グッドフォーカス賞【防災・復興デザイン】（日本デザイン振興会会長賞）

- ・屋外用炊飯器 魔法のかまどごはん/タイガー魔法瓶株式会社
- ・応急住宅 令和6年能登半島地震被災地へのインスタントハウスの設置/名古屋工業大学北川啓介研究室
- ・ふるさと納税 ふるさとチョイス災害支援における「代理寄付」の仕組み/株式会社トラストバンク

## <資料> 正副審査委員長メッセージ

### 勇気と有機のあるデザイン

今、デザインの持つ「さまざまなモノ・コトをより良くする」力は、あらゆる場面や場所でさらに求められています。

かつてデザインは物理的な存在に対してのみ機能すると考えられていた時代がありました。しかし、今ではモノを生み出すプロセスや思考自体にもデザインが要求されます。とりわけグッドデザイン賞は一つの創作物を多種多様な断面から分析し、さまざまな分野の審査委員が共通のアウトカムを持ち議論を重ね審査を行う、世界的にもユニークなデザイン賞です。



齋藤精一 審査委員長

グッドデザイン賞がいま探求するデザインとは、すべての人が直面する個々で少しずつ違う問題・課題に対して改善の力を与えてくれる存在であり、生活をよりいっそう美しくしてくれる活動であると考えます。それは、社会を単に一つの大きな集団として捉えるのではなく、実践的創造に関わる人々が解像度高く分析・分解することで、はじめて見出すことができるものです。

2024年度のテーマである「勇気と有機のあるデザイン」は、昨年度のフォーカス・イシューを編纂する過程で生まれました。デザインに関わる人が勇気を持って一歩踏み出し、しなやかに美しく、場面や場所に応じた有機的な考えと体制によって、アイデアを社会に実装していくこと。そうしたデザインの潮流をさらに探求し、さまざまな分野や部門から生まれるモノ・コトの、ときに大胆でときにささやかな、強いデザインを見つけたいと思います。

### 状況を切り拓く力

今年もグッドデザイン賞が始まります。

昨年の審査会から見えてきた潮流から私たちが見出したテーマは「勇気と有機のあるデザイン」。

気候変動や大きな災害に脅かされる日々の暮らし。停滞感に包まれ、少しずつ、しかし確実に勢いを削がれていく経済、そして社会。世界の人々とともに共有できていたと信じていた良識は戦争・紛争に姿を変え、私たちに大きなショックを与えました。しかし、楽観的に未来は明るいと言いつらくなったこのような状況下でも「ものづくり」の過程を通して見えてくる人々の、より良い変化を望む力はとてもポジティブでまぶしく感じられました。



倉本 仁 審査副委員長

今、デザインに求められていることの一つに「状況を切り拓く力」があります。

停滞した状況に向かって声を上げる個人の勇気と強い意志でアイデアが提起され、それを受け止める形で企業や組織が有機的に手を組み、行動をともにして、社会に実装される大きなうねりへと発展させる。デザインと総称される活動にはそんな力があるのです。

私たちは創作者の描く事物が人々の暮らしに浸透してより良い変化を生み出すことを期待し、また同時にそれが自然環境や多くの動植物にとって過不足なくバランスする状態であって欲しいと願っています。社会に向けた大きな視野とともに、細部にこだわるものづくりへの執念にも出会いたい。

今年度もグッドデザイン賞を通して強い意思、多様な提言に触れられることを楽しみにしています。

## デザインの力の向かう先

昨年、私は「デザインの力を信じているか」という問いをめぐってメッセージを書きました。今年は、そこから一歩進めて「デザインの力の向かう先」について考えたいと思います。

2023年度のテーマは「アウトカムがあるデザイン」でした。そして、受賞作品全体の傾向、潮流から導き出されたのが、今年度のテーマである「勇気と有機のあるデザイン」。有機的に分野を超えてしなやかに連携しながら、勇気を持って踏み出す、そんな姿がイメージされます。その一歩を踏み出す方向がどこに向かっているのか。それがとても重要です。



永山祐子 審査副委員長

最初に踏み出す先が、果たしてより良い未来に向かう道につながっているのか。方向を間違えばそれは大なる労力の無駄遣いになってしまう可能性もあります。私たちはたくさんのアイデアを出し、デザインを決定します。それゆえに資源の無駄遣いと同じくアイデアの無駄遣いは見直すべきです。1人の人間が考えられる量は時間的、質的にも限界があり、デザインの力を最大限発揮し大きく歩を進めていくには、方向を正しく見定める必要があります。一方で正しき道とはどちらなのかという難しい問いもあり、それを見定めていくには、トライ&エラーを繰り返しながら模索していくしかないというのも事実です。

いずれにしても多くの労力をかけなければ正しき道を見つけられず、そこからまた沢山の労力をかけてデザインをし、やっとゴールを目指すしかありません。1人では限界はそこまでですが、多くの人のトライ&エラーが共有されればもっと早くそして遠くにゴールを設定することができるはず。それがこの賞の意義だと考えています。

皆でアイデアを寄せ合い、そのプロセスを共有し、他の誰かのヒントになる――今年のグッドデザイン賞がそうした場になることを願っています。「勇気と有機のあるデザイン」をテーマに、デザインプロセスの中で、どのように困難に立ち向かい有機的に勇気を持って乗り越えたのか、ぜひ応募作を通じて共有していただければと思います。

2024年4月1日

# <資料>審査委員会

審査委員長 齋藤 精一 (クリエイティブディレクター)  
審査副委員長 倉本 仁 (プロダクトデザイナー)/永山 祐子 (建築家)

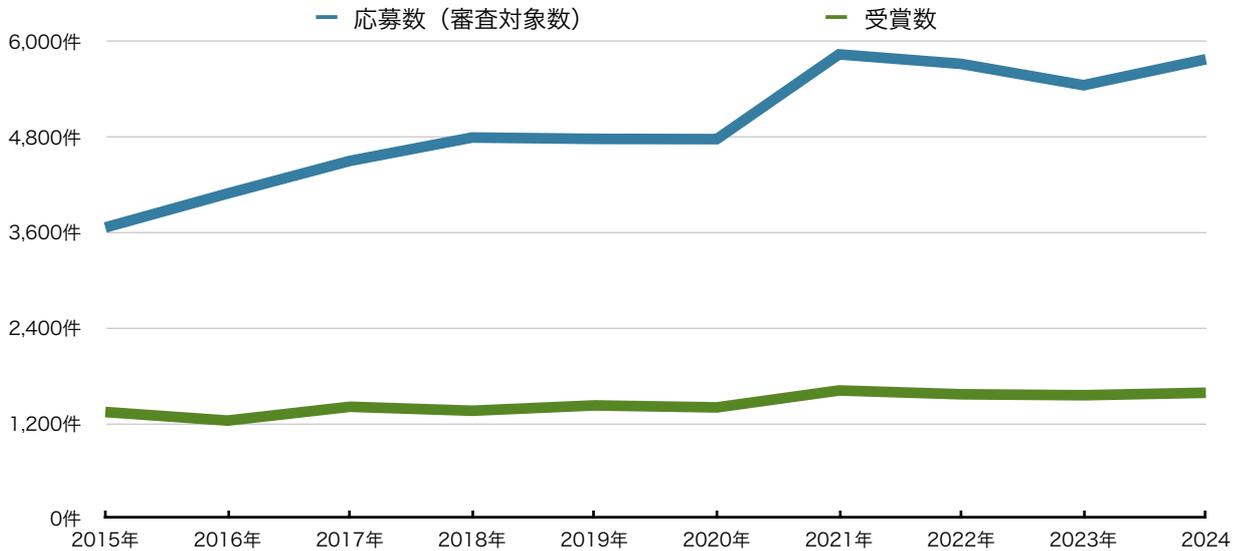
## 審査委員

### ● ユニットリーダー

<b>ユニット01：身につけるもの</b> ●廣川 玉枝 クリエイティブディレクター/デザイナー 濱田 芳治 プロダクトデザイナー 本多 沙映 デザイナー/ジュエリーアーティスト 本田 敬 プロダクトデザイナー Jacob Silas Musstry コンサルタント	<b>ユニット02：パーソナルケア用品</b> ●鈴木 元 プロダクトデザイナー 石川 俊祐 デザインイノベーション 宇南山 加子 プロダクトデザイナー/空間デザイナー 鈴木 啓太 プロダクトデザイナー Jian Zhang マーケット・リサーチ・アナリスト	<b>ユニット03：文具・ホビー</b> ●原田 祐馬 デザイナー 木村 博光 クリエイティブディレクター 佐々木 千穂 ユーザーエクスペリエンスデザイナー 山本 和豊 デザイナー ライラ・カセム デザイナー/アートディレクター Thomas Garvey インダストリアルデザイナー
<b>ユニット04：生活用品</b> ●柳沼 周子 バイヤー 石橋 忠人 プロダクトデザイナー 北川 大輔 プロダクトデザイナー 安西 葉子 デザイナー Kulthida Teachavorasinskun デザイン学研究者	<b>ユニット05：生活家電</b> ●川上 典李子 ジャーナリスト 中坊 社介 プロダクトデザイナー 堀切 和久 プロダクトデザイナー 松本 博子 デザインディレクター Mylene Abiva テックプレナー	<b>ユニット06：映像/音響機器</b> ●三宅 一成 デザイナー 片岡 哲 プロダクトデザイナー 清水 久和 プロダクトデザイナー 堀田 峰布子 サーキュラーエコノミー統括 Byung-wook Chin インダストリアルデザイナー
<b>ユニット07：情報機器</b> ●小野 健太 デザイン研究者/インダストリアルデザイナー 檜垣 万里子 プロダクトデザイナー 宮沢 哲 デザインディレクター/プロダクトデザイナー 安井 重哉 UIデザイン研究者 Shikuan Chen プロダクトデザイナー	<b>ユニット08：産業/医療 機器設備</b> ●朝倉 重徳 インダストリアルデザイナー 石川 善樹 予防医学研究者 内田 まほろ キュレーター 重野 貴 プロダクトデザイナー 村上 存 設計工学研究者	<b>ユニット09：住宅設備</b> ●橋田 規子 プロダクトデザイナー 佐藤 弘喜 デザイン学研究者 寺田 尚樹 建築家/デザイナー 松澤 剛 デザインエディター Javier Ricardo Mejia Sarmiento 戦略・工業デザイナー
<b>ユニット10：家具・オフィス/公共 機器設備</b> ●渡辺 弘明 インダストリアルデザイナー 五十嵐 久枝 インテリアデザイナー 小林 マナ インテリアデザイナー 田淵 智也 デザイナー 柳原 照弘 デザイナー	<b>ユニット11：モビリティ</b> ●根津 孝太 クリエイティブコミュニケーター 谷口 綾子 都市交通計画・交通工学研究者 森口 将之 モビリティジャーナリスト 山本 卓身 プロダクトデザイナー Baonan Du プロダクトデザイナー	<b>ユニット12：建築 (戸建て住宅~小規模集合・共同住宅)</b> ●手塚 由比 建築家 伊藤 博之 建築家 倉方 俊輔 建築史家 原田 真宏 建築家/大学教授 Chee Su Eing インテリア・デザイン・スペシャリスト
<b>ユニット13：建築 (中~大規模集合・共同住宅)</b> ●柘澤 麻利 建築家 岩月 美穂 建築家 千葉 学 建築家 仲 俊治 建築家 Shu-chang Kung 建築家/インテリアデザイナー	<b>ユニット14：建築 (産業/商業施設)</b> ●成瀬 友梨 建築家 五十嵐 太郎 建築評論家 色部 義昭 グラフィックデザイナー/アートディレクター 大野 力 建築家 丸山 優子 建築プロジェクトマネジャー	<b>ユニット15：建築 (公共施設)・土木・景観</b> ●山崎 健太郎 建築家 岩瀬 諒子 建築家 川西 康之 建築家/デザイナー/ファシリテーター 西澤 徹夫 建築家 西田 司 建築家 Jian Liu 都市プランナー/デザイナー
<b>ユニット16：メディア・コンテンツ</b> ●野崎 互 プロジェクトディレクター 鹿野 護 デザイナー 佐々木 康晴 クリエイティブディレクター 関本 明子 グラフィックデザイナー/アートディレクター 森内 大輔 デザイナー	<b>ユニット17：システム・サービス</b> ●長田 英知 ストラテジスト 左右田 智美 エクスペリエンスデザイナー ドミニク・チェン 情報学研究者 水野 祐 弁護士 Ana Arriola-Kanada プロダクトデザイナー/研究者	<b>ユニット18：地域の取り組み・活動</b> ●山出 淳也 アーティスト 木住野 彰悟 アートディレクター/グラフィックデザイナー 田中 元子 グランドレベルデザイナー 新山 直広 クリエイティブディレクター 吉田 愛 建築家 Li-Chin Kuo キュレーター/コミュニティ・プランナー
<b>ユニット19：一般向けの取り組み・活動</b> ●田中 みゆき キュレーター/プロデューサー/社会福祉士 西川 日満里 建築家 永田 宙郷 プランニングディレクター 廣田 尚子 デザインディレクター ムラカミ カイエ デザイナー/クリエイティブディレクター	<b>海外賞連携ユニット</b> シンガポール 中坊 社介 プロダクトデザイナー タイ 石橋 忠人 プロダクトデザイナー インドネシア 重野 貴 プロダクトデザイナー フィリピン 石川 俊祐 デザインイノベーション	

## <資料>事業実績

グッドデザイン賞応募数・受賞数の推移



国内 都道府県別受賞件数

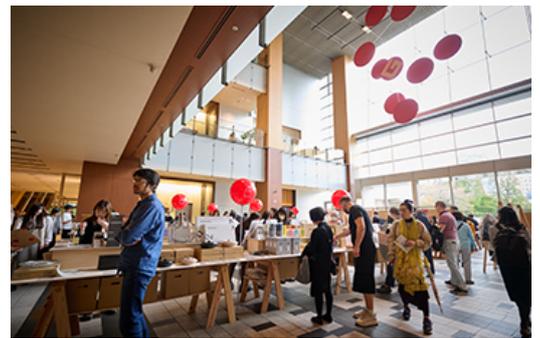
北海道	18	埼玉県	36	岐阜県	14	島根県	0	佐賀県	2
青森県	2	千葉県	13	静岡県	23	鳥取県	1	長崎県	4
岩手県	2	東京都	688	愛知県	56	岡山県	8	熊本県	11
宮城県	12	神奈川県	72	三重県	4	広島県	12	大分県	2
秋田県	2	新潟県	26	滋賀県	4	山口県	1	宮崎県	2
山形県	5	富山県	8	京都府	20	徳島県	4	鹿児島県	4
福島県	5	石川県	10	大阪府	142	香川県	2	沖縄県	5
茨城県	4	福井県	10	兵庫県	19	愛媛県	6		
栃木県	2	山梨県	2	奈良県	5	高知県	4		
群馬県	8	長野県	15	和歌山県	3	福岡県	30		

海外 国・地域別受賞件数

カナダ	1	インド	2	フィリピン	9	台湾	126
中国	161	インドネシア	10	シンガポール	11	タイ	15
デンマーク	1	イタリア	1	韓国	18	日本	1186
フィンランド	1	ラオス	1	スペイン	1		
ドイツ	3	マレーシア	1	スイス	1		

## <資料>スケジュール

4月1日 - 5月27日	グッドデザイン賞およびロングライフデザイン賞の応募受付期間
4月1日 - 4月30日	ロングライフデザイン賞ユーザーからの推薦期間
6月6日 - 7月1日	一次審査期間
7月2日	一次審査結果通知
7月10日 - 8月22日	二次審査期間
8月7日 - 8月9日	二次審査会、ベスト100選考会
8月23日	二次審査結果通知
9月27日	グッドデザイン・ベスト100 プレゼンテーション審査 特別賞審査会
10月16日	受賞発表
10月25日 - 29日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2024
10月16日 - 11月27日	「私の選んだ一品」展
2025年3月	年鑑「GOOD DESIGN AWARD 2024」発刊



## ⑪オウンドメディアによる情報発信

主にグッドデザイン賞の受賞対象と受賞者を紹介し、デザインへの関心を高め、グッドデザイン賞のファンを増加させることを目的として各種情報発信活動を展開している。

2023年度から開始したオウンドメディア「.g Good Design Journal」では、グッドデザイン賞の最新情報を随時紹介する「GOOD DESIGN REPORT」、グッドデザイン賞受賞者を訪ねデザインの裏側について明らかにする「グッドデザイン探訪」の3本に加え、2024年度からは、デザインの素朴な疑問をやさしく解説する新企画「デザインの？（ハテナ）」を掲載。4連載で全39本の記事を日英両言語で公開し、12万5千PVを獲得した。

「Instagram」では、グッドデザイン賞受賞対象を1日1件ずつ紹介する記事を掲載し、フォロワー数は前年度より4千人弱増加し、6万1千人を超えた。「Facebook」もフォロワー数が4万人強を数えるほか、「note」（フォロワー数1万人強）、「YouTube」（登録者数8千人強）でも継続的な情報発信を行なっている。



ドットジーグッドデザインジャーナル

## ⑫海外に向けた情報発信

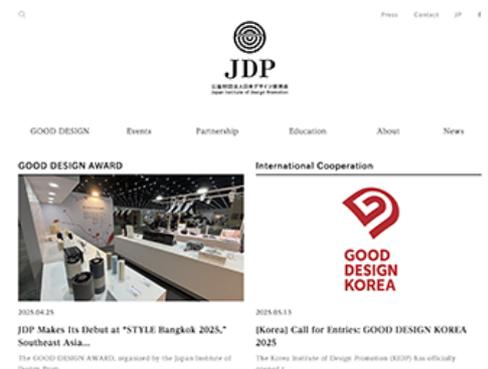
グッドデザイン賞の海外における認知度をさらに高めるため、国際的なメディアパートナーと協力して応募促進と広報活動を行なった。特に、中国のデザインメディア「日本設計小駅」および台湾のカルチャー誌「秋刀魚」との協力により、応募開始から受賞発表に至るまで、オンラインセミナーや特集ページを通じたデザイン振興活動を展開した。受賞発表時には公式ウェブサイトでの受賞対象一覧の公開に加え、SNSやメールニュースを活用した情報発信を強化し、グローバルな受賞認知の拡大を図った。さらに、「秋刀魚」とはポッドキャスト番組も継続的に制作し、台湾のインフルエンサーや日本のデザイナーをゲストに迎えた対談形式のコンテンツを提供。2024年度までに4シーズン、計32回のエピソードを配信し、平均ダウンロード数は約1.3万回に達している。また、.g Good Design Journalやフォーカスイシューではほぼリアルタイムでの英語発信も行なっているほか、JDPウェブサイトも英語ページのコンテンツのアップデートを適時行なうなど、各種制作物・発信情報の多言語化に取り組んでいる。



「日本設計小駅」微博 (Weibo)グッドデザイン賞ページ



台湾「秋刀魚」ポッドキャスト企画



JDPウェブサイト 英語ページ

### ⑬「受賞デザイナーギャラリー」の構築

グッドデザイン賞事業を通じて蓄積されている膨大なデータのうち、主に「受賞ギャラリー」の情報を調査や研究のために利活用するためのデータベース整備として、データマネージメント・プラットフォーム基盤の構築に取り組んできた。昨年度までに企業ごとの検索機能の実装が完了し、2024年度は、グッドデザイン賞の受賞対象を「受賞デザイナー」単位で見ることができるデータベースとして「受賞デザイナーギャラリー」の構築・実装を行なった。所属会社が変わったり、結婚などで名前が変わっても、デザイナー個人と受賞デザインを紐付けるように整備した。個人ページのポートフォリオとしての活用を促進し、グッドデザイン賞で評価されたデザイナーを探ることができる場として、新たな受賞メリットに繋げることを目指す。

## 2. ロングライフデザイン賞事業

2024年度ロングライフデザイン賞は95件の応募に対して12件が受賞した。受賞価値の向上のため、新たに受賞作紹介のリーフレットを作成して受賞展会場などで配布したほか、受賞各社へのインタビューを行いグッドデザイン賞のウェブサイトと年鑑で公開した。

ロングライフデザイン賞審査委員会  
齋藤 精一 クリエイティブディレクター  
倉本 仁 プロダクトデザイナー  
菊地 優里 fennicaディレクター  
黒川 光晴 株式会社虎屋 代表取締役社長



ロングライフデザイン賞受賞展

## グッドデザイン・ロングライフデザイン賞（日本デザイン振興会会長賞）

- ・筆記具 ステッドラー 製図用シャープペンシル/ステッドラー日本株式会社
- ・オイルパステル クレパス/株式会社サクラクレパス
- ・両面テープ ナイスタックTM/ニチバン株式会社
- ・洗濯石鹸 ウタマロ石けん/株式会社東邦
- ・日焼け止め アネッサ パーフェクトUVスキンケアミルク NA/資生堂クリエイティブ株式会社
- ・栄養補助食品 ミキブルーン エキストラクトシリーズ/三基商事株式会社
- ・防災ずきん ファシル 防災ずきん/ファシル株式会社
- ・和紙照明（彫刻）あかり33N/株式会社オゼキ
- ・ヤスリ 組ヤスリ ツボサン株式会社
- ・全天球カメラ RICOH THETA/株式会社リコー
- ・番組コンテンツ+イベント 天才てれびくん/日本放送協会（NHK）
- ・カウンターコーヒー セブンカフェ（コーヒー）/株式会社セブン-イレブン・ジャパン

## 3. 国際連携事業

デザイン関連の国際プラットフォームへの参加実績として、9月の中国・煙台での国際世界工業デザイン大会（WIDC）2024、続く10月中国・青島でのInternational Council of Design (Ico-D)第30回総会にそれぞれ参加し、最新の工業デザインおよび博物館デザインに関する議論を共有した。また、2022年度より継続して協力を行っている経済産業省の「コロンビアにおけるグッドデザイン賞設立支援事業」は最終年度を迎え、10月にはコロンビア国内3都市での応募促進セミナーへの参加、3月には第一回コロンビア・グッドデザイン賞の一次審査会へ日本人審査委員4名を派遣して運営ノウハウの伝達と審査プロセスの確立を支援した。加えて、台湾デザインセンターとの協力による台湾国際学生デザインコンペティション（TISDC）ではJDP賞を贈呈し、優れた学生作品を表彰した。また、昨年度のタイDEマーク審査会での交流を契機に、3月に香港で開催されたHong Kong Smart Design Award (HKSDA) 2025審査会にも参加。アジア地域を中心とした広域的なデザイン連携ネットワークの一層の拡充を実現した。

## デザイン賞連携・運営支援

2024年度のデザイン賞連携においては、毎年実施しているタイ、インドネシア、シンガポールに加え、隔年開催のフィリピンとラオスでも審査会に日本人審査委員の派遣を行った。各国の審査委員との対面議論を通じて連携を強化した。日本で8月に開催したグッドデザイン賞二次審査会には、中国・台湾・韓国からの審査委員に加え、賞連携委員としてタイ・インドネシア・シンガポール・フィリピンから審査委員が来日。さらに、WDOからはPresidentのThomas Garvey氏、コロンビアからも審査委員を迎え、国際的な視点での活発な議論と交流が行われた。これにより、各国のデザイン賞との連携基盤がさらに強化された。2024年度は賞連携各国から計48件の受賞があり、受賞展では特設コーナーを設置して各国の優れたデザインの特徴や価値を来場者に紹介した。これらの取り組みにより、国際的なデザイン交流の促進と相互理解の深化に貢献した。



フィリピンGDA審査会  
(5月・マニラ)



タイDEマーク審査会  
(6月・バンコク)



インドネシアGDI審査会  
(7月・ジャカルタ)



シンガポールSGマーク審査会  
(7月・シンガポール)



WIDC 2024年世界工業デザイン大会  
(9月・中国煙台)



ICoD第30回総会  
(10月・中国青島)



コロンビア・グッドデザイン賞応募促進セミナー  
(10月・コロンビア国内3都市)



台湾国際学生デザインコンペティション表彰式  
(11月・台北)



Hong Kong Smart Design Award 2025審査会  
(3月・香港)



コロンビア・グッドデザイン賞審査会  
(3月・ボゴタ)



ラオス・グッドデザイン賞受賞セレモニー  
(3月・ビエンチャン)

## 4. 広報・情報提供事業

日本デザイン振興会では、様々なパートナーと連携し、場の提供を通じたプロモーション活動を積極的に行っている。2015年から開設しているGOOD DESIGN Marunouchiでは、自主および共同、外部企画による展示会などを通じて様々なステークホルダーとともにデザインが持つ社会的価値を広く訴求している。

### ①GOOD DESIGN Marunouchi

日本国内で初となる常設型の広報拠点としてオープンしたGOOD DESIGN Marunouchiは9年目を迎えた。2024年度は23年度末より開催した公募企画展「人生の大切なことをゲームから学ぶ展」を皮切りに、独自企画展5本、共同企画展4本、外部企画8本の合計17企画を開催、年間7万人超の合計来場者数となった（23年度公募企画展「人生の大切なことをゲームから学ぶ展」は本年度名古屋市と京都市に巡回／来場者数含まず）。

また、三菱地所株式会社の協賛を得て、日本の山と木が抱える課題を解くデザインと技術をプロモーションする展覧会「山と木と東京」を開催した。大丸有+八重洲の計5会場で開催し、フォーラムやトークを合わせて実施。初の大規模展覧会で、延べ約1.5万人を動員した。

グッドデザイン賞関連では、「こどもと家族」や「道具」をテーマとした受賞デザイン展示のほか、審査委員が受賞デザインから「一品」を選び紹介する恒例の「私の選んだ一品」では、展示に合わせて15本のトークイベントを実施した。

4回目となる展示企画の公募は過去最多の46企画が応募され、「ごはんのデザイン」展を選出した。

街のデザイン拠点として、大丸有環境共生型まちづくり推進協会と共催する街の写真展「大丸有フォトアーカイブ みんなの写真展」は2回目を開催。500作品を超える応募を集めた。

自然や文化など、地域資源に根ざしたデザインに取り組む全国のクリエイターを紹介するオンラインプログラム「山水郷チャンネル」は年間17回の配信を行い、そのデザインに触れられる機会として4回目となる「山水郷のデザイン展」を開催した。



GOOD DESIGN Marunouchi



人生の大切なことをゲームから学ぶ展



わたしの選んだ一品



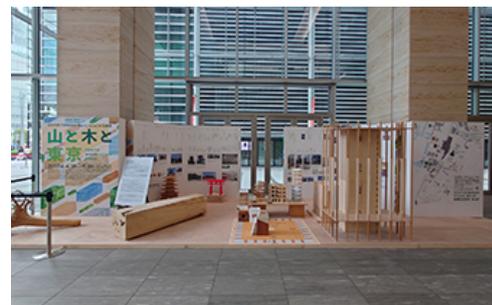
大丸有フォトアーカイブみんなの写真展



山と木と東京 GDM会場



山と木と東京 新日石ビル会場「都市木造スタジオ」



山と木と東京 東京ミッドタウン八重洲会場

2024年度開催のGOOD DESIGN Marunouchi企画展示

会期	名称	実施主体	入場者数
3/15 - 4/14	人生の大切なことをゲームから学ぶ展	たきコーポレーション・JDP	17,152
4/18 - 5/19	山と木と東京 TOKYO WOOD TOWN 2040	JDP	12,306
5/24-6/2	すてるデザイン～サーキュラーな社会の構築を目指して、見えてきた課題とアプローチ	多摩美術大学 TUB、多摩美術大学生産デザイン学科、多摩美術大学統合デザイン学科研究室	3,074
6/6-6/26	NOTO NEXT みんなのアイデア展	JDP・株式会社プロダクトデザインセンター	1,574
6/29-7/10	「まちを纏う」展 一都市型サーキュラーとまちづくり	NPO法人大丸有エリアマネジメント協会	728
7/14-8/18	山水郷のデザイン4 愛と遊びとローカリティ	JDP	4,104
8/21-9/1	equalto 10th Anniversary	アッシュコンセプト株式会社	853
9/3-9/15	こどもと家族とグッドデザイン	JDP	1,462
9/17 - 9/30	No Boarder 2.0	東京藝術大学デザイン科	927
10/3-10/10	ルービック80/50 マジックの50年	駐日ハンガリー大使館	397
10/16-11/27	グッドデザイン賞審査委員セレクション わたしの選んだ一品	JDP	9,549
12/1-12/9	Dining Chair Exhibition きせき展	多摩美術大学 建築・環境デザイン学科	1,496
12/14-12/25	GOOD DESIGN AWARD 2024 燕三条	公益財団法人 燕三条地場産業振興センター	9,991
1/6-19, 1/29-2/3	ことしの道具 2025年のくらしの手触り	JDP	8,884
2/6-2/19	日本空間デザイン2024展	日本空間デザイン賞実行委員会	1,405
2/21-3/4	大丸有フォトアーカイブ みんなの写真展「まちの魅力」	JDP、一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会	1,008
3/7-3/20	視点の拡張譜 未来に響くデザインの記録	サステナブル・ブランド ジャパン（運営：株式会社 博展）	2,501
3/23-4/27	GDM第4回公募選出企画展 たーんと、学ぼう。ごはんのデザイン	JDP・TWDA 博報堂	15,123

「山水郷チャンネル」配信実績（Youtube 総視聴回数 16,102回）

#99	本城慎之介（学校法人軽井沢風越学園 理事長）	#107	時岡 壮太（株式会社 デキタ 代表取締役）
#100	山極 壽一（総合地球環境学研究所 所長）	#108	荒井智史氏 NPO法人還住舎／青ヶ島還住太鼓 代表
#101	小林 新也（合同会社シーラカンス食堂/MUJUN/ 合同会社里山インストール/ギャラリー時-Toki-）	#109	年末特番「山水郷チャンネルの2024年を振り返る」
#102	ナガオカケンメイ（デザイン活動家・ D&DEPARTMENTディレクター）	#110	大熊 充（うきはの宝株式会社 代表取締役）
#103	山崎 彰悟（株式会社ヤマチク 代表取締役CEO）	#111	高坂 真（編集者・デザイナー／のへの 代表）
#104	吉宗 五十鈴（雪月風花 福智院 店主）	#112	春山 慶彦（株式会社ヤマップ 代表取締役CEO）
#105	吉泉 聡（デザイナー / TAKT PROJECT代表）	#113	佐藤 可奈子（women farmers japan株式会社 取締役）
#106	小林未歩・山田沙紀（愛と希望の共同売店プロジェクト）	#114	宮崎 晃吉・顧 彬彬（株式会社HAGISO）・川口 瞬（真鶴出版）

## ②地方自治体等との連携事業

宮崎県都城市立美術館の主催により特別展「わたしたちのグッドデザイン」展が2024年10月26日から12月8日まで開催された。1950年代以降の歴代受賞作など200点以上を出展する、中核地方都市における初めての大規模な企画展として好評を博し、会期中に7,200名超の来場を記録した。当会は本企画の開催にあたり、展示構成の計画から関連プログラムの立案・関係者への渉外まで各行程にわたる協力を行った。さらに会期中に都城市立工業高等専門学校に対して寄附講座を開講した。



都城市立美術館「わたしたちのグッドデザイン」展

## 公益目的事業2

(デザインに係る人材の育成に関する事業)

### 1. インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター事業

東京ミッドタウン・デザインハブに設けられたインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターでは、デザインハブ企画展関連セミナーのほか、国内外のデザイン関連機関やデザイン教育機関の事業の推進、各種のデザイン活動の促進、デザイン人材育成支援を目的とするセミナーやシンポジウム、ワークショップなどを展開している。

2024年度は2023年度に引き続き、オーストラリア・Monash University, Art Design & Architectureのコミュニケーションデザイン学科の学生約30名の滞在製作や、フィンランドセンターのトーク・ワークショップ企画に会場を提供したほか、大阪・関西万博の設備リユースに関する連続トーク、2025年3月に開催された「TOKYO CREATIVE SALON」のトークイベントを開催した。

24年度より、リエゾンセンターの独自企画として、デザイナー・ノンデザイナーの区別なく、仕事や生活にデザインを活かすための学び合いの場「JDPイナバデザインスクールトーキョー」をスタートした。月2回の無料のデザインスクールとしてリエゾンセンターおよび都内の様々な場所で継続して開催する。



上左) 山荘セミナー  
上中) Caring Design EXPERT検定講座  
上右) 大阪・関西万博とサーキュラーエコノミー  
下段) JDPイナバデザインスクールトーキョー

## 2024年度開催の主なセミナー、シンポジウム、ワークショップ

実施日	名称	実施主体
5月-10月	山荘セミナー／編み物クラブ／「音楽、心、体と脳」セミナー／「未来へのイノベーション：高齢化社会におけるAI主導型デザイン」セミナーなど	フィンランドセンター
6/2	Caring Design EXPERT 検定講座ワンデイ・ワークショップセミナー	一般社団法人 ケアリングデザイン
7月	21_21クロストーク vol.7 展覧会ディレクターズボタン「未来のかけら：科学とデザインの実験室」×「ゴミらんち展」	2121 DESIGN SIGHT 株式会社
9/24ほか	Next Eco Design 2024 エコデザインワークショップ	日本インダストリアルデザイン協会
10月-25年3月	大阪・関西万博とサーキュラーエコノミー vol.1-4	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、JDP
10月・11月	TCL-多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム	多摩美術大学
10/24-27	Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2024 Talk Salon	東京ミッドタウンマネジメント株式会社
11/22-12/3	Monash Design Study Tour, Japan	Monash University
12月	コンヴィヴィアル・デザイン ワークショップ 2024	ダイヤモンド社
2025年2-3月	WEアートスクール アート思考プログラム	株式会社 OFFICE HALO
2025年2-3月	JDPイナバデザインスクールトーキョー	JDP
3/16	TOKYO CREATIVE SALON 「日本のクリエイティブの交差点ー時代を築くデザイナーと未来を創るデザイナー」	東京クリエイティブサロン実行委員会

## 2. グッドデザイン・ニューホープ賞事業

クリエイターを目指す大学・教育機関の学生及び卒業・修了後間もないクリエイターのデザインの作品・プロジェクト・研究を審査・顕彰することにより、新たなクリエイティブ人材の発掘とキャリア蓄積の支援を目的とした「グッドデザイン・ニューホープ賞」の第3回を開催した。齋藤精一審査委員長、永山祐子審査副委員長の他、以下の審査委員を迎え、審査を行なった。

### [物のデザイン]

田子 學（アートディレクター、デザイナー）

玉井美由紀（CMFデザイナー）

金森聡史（デザイナー 本田技研工業株式会社 クリエイティブソリューションセンター）

松本優子（プロダクトデザイナー パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社）

### [場のデザイン]

鈴野浩一（建築家）

鷺尾有美（空間デザイナー コクヨ株式会社 neighborGood主宰）

### [情報のデザイン]

浅沼 尚（デジタル監 デジタル庁）

河瀬大作（TVプロデューサー）

### [仕組みのデザイン]

内田友紀（都市デザイナー）

松坂孝紀（学校経営者 神山まるとと高等専門学校）

2024年3月～8月にかけて応募を受け付け、全国の大学・専門学校・高専など、前年比25%増の125の学校から、前年比1.5倍となる606件の応募が寄せられた。依然、関東と関西からの応募が全体の約7割強を占めているものの、昨年度に比べ、これら以外の各地域からの応募が増加した。

5月には、京都市立芸術大学の協力の下、関西圏の学生を対象としたセミナーを開催し、応募の呼びかけを行った。

### 応募の地域ごとの割合と増減

地域	割合	前年比
北海道	0.70%	▼0.7%
東北	3.80%	△1.6%
関東	52.10%	▼2.8%

地域	割合	前年比
甲信越	1.80%	△0.6%
東海	7.10%	△3.0%
北陸	1.80%	▼0.6%

地域	割合	前年比
関西	23.80%	▼1.3%
中国・四国	3.60%	0
九州・沖縄	5.30%	△0.2%

9月20日の審査会で受賞作品94件を選定し、その中から各カテゴリーの上位2作品8件を「優秀賞」として選定した。12月7日に優秀賞8組のプレゼンテーション審査を公開で実施し、その中から最優秀賞1件を発表した。発表後、受賞祝賀会を開催し、受賞者・審査委員・大学教員・企業のデザイン部門関係者などで交流の場を設けた。受賞者プロモーションの一環として、2024年11月1日～5日の間に六本木で開催されたグッドデザイン賞受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2024」においても、全受賞作品をパネルで紹介した。さらに、2025年1月～5月にかけて、受賞者向けプログラムとして、「デザインの現場見学会」として4つのセミナーと、2回シリーズのワークショップ・プログラム、4回のフォローアップ・ゼミを開催した。受賞者がデザイン業界の第一線で活躍する専門家から直接学び、交流できる機会を提供するとともに、受賞者同士の交流を深め、将来のコラボレーションや情報交換につながる人的ネットワークを構築する場を提供した。

## 2024年度ニューホープ賞 関連イベント

実施日	内容
2024年5月21日	応募促進セミナー（講師：井上裕太氏・原田祐馬氏）京都市立芸術大学 参加者：56名
2024年11月1日～5日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2024における展示
2024年12月7日	最終審査会・受賞祝賀会
2025年2月1日・2月8日・2月24日・3月15日	フォローアップ・ゼミ（講師：ニューホープ賞審査委員）参加者：43名（合計）
2025年3月8日・3月20日	デザイン・ワークショップ（講師：原田祐馬氏）全2回シリーズ 参加者：13名
2025年3月6日	デザインの現場見学会：デジタル庁 参加者：20名
2025年4月19日	デザインの現場見学会：コクヨ CAMPUS FLATS TOGOSHI 参加者：19名
2025年5月10日	デザインの現場見学会：JAKUETS TOKYO MATSUBARA（予定）
2025年5月17日	デザインの現場見学会：FEEL GOOD CREATION（予定）

さらに受賞者・受賞作品のプロモーション企画として、下記のようなメディア露出を図った。

- ・2024年5月15日～ ウェブ媒体「JDN」「登竜門」「デザインノトビラ」にて最優秀賞受賞作品を紹介する記事出稿
- ・2024年5月31日～ ウェブ媒体「AXIS WEB MAGAZINE」にて受賞者を紹介する記事出稿

2025年3月15日には、全受賞作品を収録した受賞作品集を刊行し、受賞者・大学教員・企業関係者などへ配布を行なった。

2025年度（2025年3月応募開始）より、本賞の持続的発展と次世代クリエイター支援の強化を目的とした「企業パートナー・プログラム」を実施するべく参加企業を募集した。本プログラムは、企業から協賛を募り、若手クリエイターの育成支援および活動基盤の拡充に活用することを目的としている。協賛企業に対しては、将来有望な若手クリエイターとの接点創出および人材発掘の機会の提供を予定しており、デザイン人材育成を通じて産業界の発展に寄与する相互価値創造のプラットフォーム機能を強化するものとして位置づけている。

## 2025年度企業パートナー・プログラム参加企業名一覧

### ■プラチナ・パートナー：5社

コニカミノルタ株式会社  
株式会社電通  
パナソニック株式会社  
株式会社日立製作所  
富士フイルム株式会社

### ■パートナー：8社

株式会社ニコン  
シャープ株式会社  
セイコーエプソン株式会社  
株式会社本田技術研究所  
三菱電機株式会社  
ヤマハ株式会社  
株式会社LIXIL  
株式会社リクルート



京都市立芸術大学でのセミナー（2024年5月）



審査会の様子（2024年9月）



GOOD DESIGN EXHIBITIONでの展示（2024年11月）



最終審査会（2024年12月）



最終審査会（2024年12月）



受賞祝賀会（2024年12月）



デザインの現場見学会：デジタル庁（2025年2月）



デザインの現場見学会：ココロ（2025年4月）



2024年度受賞作品集

2024年度最優秀作品

「入院している小学生を対象にしたあそびのスターキット『アドベンチャーBOX』」

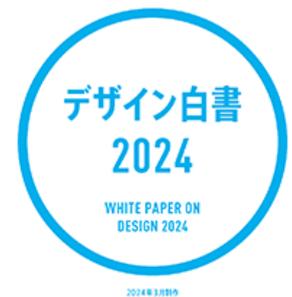
### 3. デザインに関する調査研究・情報発信事業

#### ①デザイン白書

2024年6月に「デザイン白書 2024 (WHITE PAPER ON DESIGN 2024)」を公開した。同白書は350ページにわたって日本の地域や企業、行政などのデザインに関する多様な取り組みや動向について幅広く紹介し、定量的・定性的に示すことで、デザインへ投資することの意義や効果を多様な視点から明らかにした。

また、全国各地において、デザインを用いたどのような取り組みが展開されているの

事-P.19



か、デザインは経済や社会にどのような効果をもたらしているのかなどを取りまとめている。

## ②デザイン組織KPI調査

国立大学法人一橋大学との間で、デザイン組織に関する調査研究分野で協働連携に係る覚書を締結し、2025年1月に企業内のデザイン部門・組織に関する調査研究での連携を開始した。この「デザイン組織 KPI」調査では、社内デザイン部門・組織（インハウスデザイン組織）をもつ国内企業を対象に、同組織の貢献を可視化することで、企業間で量的に比較検討するための主要指標（Key Performance Indicators: KPI）として特定することを目指している。

## ③デザイン研究・デザイン振興助成事業

2024年12月より、デザイン研究・デザイン振興の助成事業「デザイン助成プログラム」を開始した。同プログラムは、パーパスの中で2030年までに実行する目標として掲げた「DESIGN INSTITUTE（デザインを探究する）」を構成する事業の一つとして、デザイン分野の調査研究への助成、日本国内におけるデザイン振興活動への助成を通じて、デザイン分野の研究をリードする人材や、デザインの力を活用した取り組みを広げる人材を育成することを目指している。2024年12月11日（水）から2025年2月3日（月）までの期間に公募を行い、「デザイン研究」に7件、「デザイン振興」に44件の応募があり、有識者で構成する審査委員会の審査により、「デザイン研究」2件、「デザイン振興」2件を助成対象として決定した。これらは2025年度中に研究・活動を行い、2026年度に成果の報告を行う予定である。

### 審査委員

デザイン研究：鷲田祐一 一橋大学大学院 経営管理研究科 教授

デザイン振興：渡邊誠介 長岡造形大学 造形学部 教授

### 助成対象一覧

#### [デザイン研究]

1. デザイン経営実践による『ゼブラ企業』へのトランジションについての研究

研究代表者：井登 友一（立命館大学 経営学部 教授 / 株式会社インフォバーン 取締役副社長）

共同研究者：渡邊 文隆（京都大学 成長戦略本部 特定准教授 / 信州大学 社会基盤研究所 特任講師）、阿座上 陽平（株式会社Zebras and Company 代表取締役）

2. 製品カテゴリーを超えた製品外観のデザインの借用：技術イノベーションとの関係性とその効果の意匠特許による試行的な検証

研究代表者：吉岡（小林） 徹（一橋大学 イノベーション研究センター 准教授）

共同研究者：秋池 篤（東北大学大学院 経済学研究科 准教授）、勝又 壮太郎（大阪大学大学院 経済学研究科 教授）

#### [デザイン振興]

1. 「キッズデザインスクール mangrove」 創造力を育むデザイン教育プログラム

代表者：満森 美香（mangrove 代表）

2. 肥前窯業圏のうつわのデザインリサーチをもとにした、パッケージデザイン・プロトタイプとスタディー

代表者：阿部 浩之（佐賀大学 芸術地域デザイン学部 准教授）

## ④デザインに関する意識調査の実施

2025年3月に「デザインに関する意識調査」および「グッドデザイン賞認知率調査」を以下の通り実施した。

調査結果は2025年度上半期中に公開予定である。

### [日本国内]

調査対象：全国の15～69歳の男女

有効回答者数：2,100名

調査方法：インターネットアンケート調査

### [海外]

調査国・地域：韓国、台湾、香港、中国（北京、上海、深圳）、タイ

調査対象：当該地域の20歳以上の男女（男女別、20代・30代・40代以上、均等割付）

有効回答者数：各国・地域300名、中国各都市300名

調査方法：インターネットアンケート調査

## 4. デザイン体験プログラム普及推進事業

パーパスの中で2030年までに実行する目標として掲げた「DESIGN PLAYGROUND（デザインで遊ぶ）」を構成する事業の一つとして、幼少期から10代中盤の成長期における子どもがデザインに触れる機会を創出するため、2024年度から新たにデザイン体験プログラム普及推進事業を開始し、まず日本のデザイン教育の実態調査を行った。そして、その結果に基づき、教育現場に携わるステークホルダーらとデザイン体験プログラムのフィジビリティスタディに着手した。

## 5. 寄附講座開設事業

### ①立教大学院における寄附講座「デザイン経営」の実施

立教大学ビジネスデザイン研究科「デザイン経営」MBA講座を2024年6月から7月にかけて連続14回開講した。経営と事業の創出にデザインを活かすための人材育成を目的に、グッドデザイン賞受賞のデザインマネージャーやプロジェクトリーダー・企業や行政との協業実績があるデザイナーの講義、企業デザインセンター視察などからなるカリキュラムを編成して提供した。

### ②女子美術大学における寄附講座の実施

女子美術大学共創デザイン学科で、同科在學生と新入學予定者を対象に、2024年度グッドデザイン金賞受賞の「深川えんみち」を題材とする寄附講座を2025年2月16日に開講した。施設運営主体のNPO法人代表と施設の設計を担当した建築家を招いた講義を提供した。



立教大学院 寄附講座



女子美術大学 寄附講座

## 公益目的事業3

(優秀なデザインを展示・提案することにより、生活者に豊かさや潤いを与える事業)

### 1. 東京ミッドタウン・デザインハブ事業

日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学 TUBの3機関から構成されるデザイン情報の発信拠点・東京ミッドタウン・デザインハブでは、外部企画を含むギャラリースペースでの企画展示やワークショップの開催、東京ミッドタウンとの共催による「東京ミッドタウン・デザイン部」活動、国際的なデザイン・リエゾンセンターを活用した活動などを複合的に展開した。

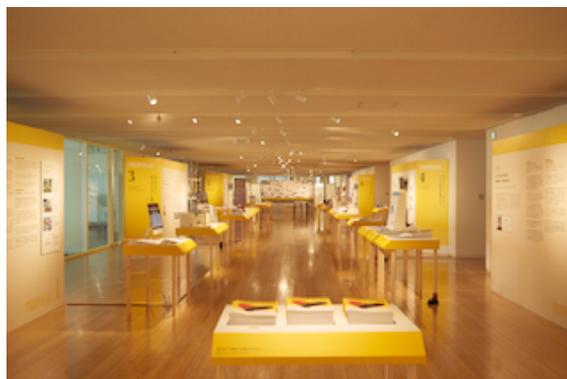
#### ①デザインハブ企画展示

2024年度は8本の企画展と恒例の夏のキッズワークショップを開催。合計来場者数は約57,000人となった。デザインハブ構成期間による合同展として、DOO(日本デザイン団体協議会)との共催により、日本のデザインの系譜を知り、未来へ繋ぐ展覧会「ROOTS OF FUTURE 過去を探って、未来を見つける」を開催、日本のデザインアーカイブの方向性のひ

とつを提示した。グッドデザイン賞関連では、受賞展の開催およびフォーカス 이슈ー10周年を記念し、本年度の提言発表に合わせて「はじめの一歩から ひろがるデザイン展 - グッドデザイン賞2024フォーカス・ 이슈ー -」を開催した。特別展としてフィリピン大使館の主催による同国のアート&デザインの展覧会「FINOPINAS The Finest of Philippine Art and Design」を開催。同国の行政機関、デザイナーが来場したほか、リエゾンセンターを活用して日本企業との交流会等も行われた。



ROOTS OF FUTURE展



はじめの一歩からひろがるデザイン展

### 2024年度開催のデザインハブ 企画展示

会期	名称	実施主体	動員数
3/22-5/6	107回企画展「PROGETTAZIONE (プロジェクトツィオーネ) イタリアから日本へ 明日を耕す控えめな創造力」	JDP	4/1以降 7,645
5/29-6/23	第108回企画展「TOKYO WOOD TOWN 2040 山と木と東京 巡回展」	JDP	3,993
7/1-8/25	第109回企画展「日本のグラフィックデザイン2024」	日本グラフィックデザイン協会	15,662
8/14-31	東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズ・ワークショップ2024	東京ミッドタウン・デザインハブ	309
9/3-13	特別展「FINOPINAS The Finest of Philippine Art and Design」	フィリピン共和国大使館 貿易投資部	2,201
9/20-10/25	第110回企画展「ROOTS OF FUTURE 過去を探って、未来を見つける」	東京ミッドタウン・デザインハブ	7,291
11/1-5	2024年度グッドデザイン賞受賞展	JDP	7,171
11/20-12/24	第111回企画展「デザインの風が最初に触れる場所」	多摩美術大学 TUB	4,059
12/2-1/13	第112回企画展「もうひとつの表示」	日本グラフィックデザイン協会	5,846
3/13-	第113回企画展「はじめの一歩から ひろがるデザイン展 - グッドデザイン賞2024フォーカス・ 이슈ー -」	JDP	3/31まで 3,010

### ②ワークショップ企画

東京ミッドタウン・デザインハブでは毎年8月、楽しくデザインを体験できる子供向けのワークショップ企画「キッズデザインワークショップ」を開催している。2024年度は企業のデザインセクションによるワークショップを多く誘致し、計18企画を実施、延べ309名が参加した。

#### 2024年度実施のキッズワークショップ

実施日	名称	実施主体
8/14	端材とネジを使ったキーホルダー制作	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会

8/16	動く感動を味わおう！だれでも作れる簡単アニメーション by Lakit	三菱鉛筆株式会社 商品開発部&Lakitグループ
8/17	生きものがいっぱい！紙の森をつくろう	武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科研究室+OGチーム
8/17,18	夏休み!親子de わくわくワークショップ「あったらいいな、こんな店」	JCD 一般社団法人日本商環境デザイン協会
8/19	木のジャングルジム「くむんだー」ワークショップ	くむんだー埼玉、くむんだー都幾川、くむんだー川越 共同実施
8/20	錫（すず）リボンに刻印してネームタグ（チャーム）をつくろう	佐々木半田工業株式会社
8/22	「未来のスーパーマーケット」を作ろう！	株式会社オカムラ商環境事業本部 みせいくラボ
8/23	「リミックス」ラボ～絵×音 かいて、きこう	パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY
8/24	紙は材でつくってみよう	芝浦工業大学デザイン工学科橋田研究室 +株式会社相馬
8/24	今までにないリモコンをデザイン！ 偶発的な気づきから新しいインタラクションを考えよう。	株式会社ホロンクリエイト
8/25	BOX ART 虫のよこごぶ飾り箱づくり	アサコラ♡キッズ♡アトリエとARIC
8/26	いろいろ混ぜてつくる 一輪挿しワークショップ	昭和女子大学 三星ゼミ
8/27	オリジナルネイルをデザインしよう Meet-Up Canon Design for Kids	キヤノンデザインセンター
8/28	糸で描こう、どう描こう？	多摩美術大学 生涯学習センター
8/29	「アニマルカリモク」家具の端材で動物をつくろう	カリモク家具株式会社
8/30	SDGs自由研究！どうぶつに聞いてみた！～著者（金魚）と一緒に読んでみよう～	一般社団法人SDGsワークス
8/31	夏だ！竹うちわをつくろう！	オープンハウス+ Spedagi Japan
8/31	端切れのぬいぐるみづくり	and sewing+ Spedagi Japan



「くむんだー」ワークショップ



今までにないリモコンをデザイン！



一輪挿しワークショップ

### ③東京ミッドタウン・デザイン部

東京ミッドタウン・デザイン部は東京ミッドタウンとの共催による活動で、当会は企画・運営と事務局を担っている。2017年から始まった本活動は、東京ミッドタウンをはじめとする六本木エリアに仕事や暮らしの場を持つ方や来街者を対象に ①クリエイティブな視点を仕事や生活に活かす ②デザインを切り口としたサードプレイスの提供 を目的としたギャラリーツアーやトーク・ワークショップを開催。2024年度は18回実施した。参加者の合計は延べ約250名。2019年より開室している「リエゾンセンター・ライブラリー」は、JDPの蔵書や東京ミッドタウンが所有する書籍を活用して、ワーカーや施設来館者に対して、無料でデザイン関連書籍に触れることができる不定期のデザインライブラリー。JDP蔵書やグッドデザイン賞審査委員の著書他、今年度は各出版社よりデザイン関連書籍の新刊80冊を献本いただきライブラリーで紹介した。年間101日間開室し、4,438名が来室した。



東京ミッドタウン・園芸部



「o+h展 生きた全体」ギャラリーツアー



「もうひとつの表示」ギャラリーツアー

## 2024年度東京ミッドタウン・デザイン部開催企画

実施日	名称
4/16	「折詰め会」 Vol. 140テーマ：場所の記憶
5/14	「折詰め会」 Vol. 141テーマ：「私の好きな音楽ジャンルと、試しにそれが合う街を当ててみた。」
6/20	「折詰め会」 Vol. 142テーマ：「次世代につなぐバトン」
7/2	東京ミッドタウン・園芸部！ ～ミッドタウンの紅葉の実生でつくるミニ苔玉～
7/23	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部「魚谷繁礼展 都市を編む」展ギャラリーツアー
7/25	「折詰め会」 Vol. 143テーマ：「エモーショナルデザインって？」
8/29	「折詰め会」 Vol. 144テーマ：「私たちはどうすれば同じ世界を見られるのか？」
9/26	「折詰め会」 Vol. 145テーマ：2030年のデザイナーに求められるものは？
10/30	「折詰め会」 Vol. 146テーマ：面白いフェスティバルを考える
11/7	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部「大西麻貴 + 百田有希 / o+h展 生きた全体 ——A Living Whole」展ギャラリーツアー
11/15	「折詰め会」 Vol. 147テーマ：2024年 あなたにとってのグッドデザイン(班長川合さん)
12/17	「折詰め会」 Vol. 148 + 忘年会 テーマ：2024年を振り返る
1/21	「折詰め会」 Vol. 149 テーマ：エクストリームお茶会で偏愛を語る(班長：平下さん)
2/13	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部「吉村靖孝展 マンガアーキテクチャー——建築家の不在」展
2/19	東京ミッドタウン・デザインハブ 企画展「もうひとつの表示」ギャラリーツアー
2/21	「折詰め会」 Vol. 150 テーマ：自分のTri-History作り～現実史、理想史、未来史～
3/25	「折詰め会」 Vol. 151 テーマ：「旅のおともの本と音楽」
3/27	ミッドタウンの桜と緑を楽しむツアー2025

## 2. 海外展示会事業

2025年4月2日から6日にかけて、タイ・バンコクにて、タイ国政府国際貿易振興局（DITP）が主催するビジネス見本市「STYLE Bangkok 2025」にグッドデザイン賞ブースを出展した。今回は日本の受賞プロダクト20点を展示し、国際的なバイヤーやデザイン関係者との交流を図った。会期中には全体で2万人が来場し、グッドデザイン賞ブースでは、セラピーロボットやウェアラブルデバイス、知育玩具などが特に高い注目を集めた。出展者からは、国際市場でのPRや現地企業とのコンタクト、新たな販路拡大の可能性について高く評価する声が寄せられた。また、現地でのネットワーキングやパネルディスカッション、デザインツアーなども実施し、今後のASEAN地域との連携強化や日本デザインの更なる発信につながる有意義な機会となった。（2024年度事業として実施）



Style Bangkokに出展

尚、2024年度内に予定されていた中国・深圳での展示会出展は、展示会自体が延期となったため、2025年度に実施予定である。

## 収益事業 1

(商標権 (Gマーク) の使用促進に関する事業)

### 1. Gマーク使用促進施策の実施

グッドデザイン賞のオウンドメディア.g Good Design JournalでGマーク活用アイデア記事を掲載。受賞企業がどのようにGマークを活用しているのかを各企業の担当者にインタビューし、具体的な事例を紹介しながら、その魅力や可能性を紹介した。また、グッドデザイン賞ウェブサイトでもわかりやすいGマーク活用方法のページを新規作成し、Gマーク使用例、使用の効果、使用者の声などをまとめるとともに、具体的な使用料や使用方法について一覧できるコンテンツとして整備した。



受賞企業から学ぶ、Gマーク活用のアイデア

### 2. GOOD DESIGN STORE支援事業

グッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報活動として野原グループ株式会社の経営による「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」と連携し、同ストアを通じた百貨店等での売り場企画を展開している。外国人層の購入が増加、全体を牽引し、過去最高だった前年度とほぼ同様の売上を記録。東京以外でのPop-up出店を積極的に推進。京都・新風館では、ストア販売商品のほか、京都を拠点とするグッドデザイン賞受賞デザイナーの製品を合わせて販売する「グッドデザイン京都」を開催した。

常設：

GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA (KITTE 丸の内)

Pop-Up：

さくらの百貨店 (北上店) 9月

新風館 (京都) 9月

北のクラフトフェア (盛岡) 10月

都城市立美術館 (宮崎県) 10月-12月

GOOD DESIGN EXHIBITION2024 (東京ミッドタウン) 11月

京都高島屋S.C (京都) 11-12月

京都新風館 Pop up

鶴屋百貨店 (熊本) 12月



京都新風館 Pop up

## 収益事業2

(受託に関する事業)

### 東京ビジネスデザインアワード

「東京ビジネスデザインアワード」は、東京都内中小企業が有する製造加工技術や素材などを「テーマ」として募集し、それらを活用した新たなビジネスプランやブランディングの提案をデザイナーから募り、双方のマッチングにより各社の新規事業推進を図るコンペティションである。当会は主催の東京都より2011年度から当事業の企画運営を受託している。

2024年度は15社より15件の応募があった。審査の結果9件のテーマを選出して、全国のデザイナーに対して新規用途開発を軸としたデザイン提案を募集、130件の提案が寄せられた。その中から各企業とのマッチングが見込まれる提案を「テーマ賞」として選出し、知財戦略・デザイン契約、広報戦略、販路開拓などに関する支援を実施。最優秀賞1件と優秀賞2件をはじめとする各事案が事業化へ向けて進展中である。

#### 最優秀賞（1件）

提案：リング製本とオンデマンド印刷技術を応用した未開拓領域への製品提案

提案者：藤井 誠、山田奈津子

企業テーマ：リング製本とオンデマンド印刷のワンストップ提供体制

企業名：富士リプロ株式会社

#### 優秀賞（2件）

提案：切削加工技術を軸とした事業再創造

提案者：清水 覚、井上弘介

企業テーマ：金属切削による高精度な軸物加工

企業名：株式会社開工精機製作所

提案：「伸びる本革ベルト」の技術を活用した家具ブランドの提案

提案者：佐藤宏樹

企業テーマ：ベルトに用いられる伸縮できる本革の加工技術

企業名：有限会社長沢ベルト工業

#### 審査委員

山田 遊（バイヤー / キュレーター） 審査委員長

秋山かおり（プロダクトデザイナー）

谷口靖太郎（デザインエンジニア / ディレクター）

日高一樹（特定訴訟代理人・弁理士 / デザインストラテジスト）

坊垣佳奈（株式会社マクアケ共同創業者 / 顧問）

宮崎晃吉（建築家）

八木 彩（アートディレクター / クリエイティブディレクター）



**TOKYO DESIGN**  
**BUSINESS DESIGN AWARD**



最終審査会・表彰式



リング製本とオンデマンド印刷技術を応用した  
未開拓領域への製品提案



切削加工技術を軸とした事業再創造



「伸びる本革ベルト」の技術を活用した家具ブランドの提案

2024（令和6）年度事業報告（総務・管理業務）

1. 会務の実施（役員会等の開催）について

(1) 評議員会

回	日時・場所	議題等
第35回	2024年6月20日(水) 15:30-17:40 対面会議 会場： インターナショナル・デザイン・ リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023(令和5)年度決算報告書(案)について</li> <li>・2024(令和6)年度事業計画書改訂(案)について</li> <li>・特定資産の設定について</li> <li>・2024(令和6)年度収支予算書改訂(案)について</li> <li>・規程・内規の制定、改正(案)について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)特定資産基金取崩し関連                   <ul style="list-style-type: none"> <li>①人材開発基金運用内規制定(案)</li> <li>②国際事業基金運用内規改正(案)</li> <li>③会計規則改正(案)</li> <li>④資産運用管理に関する内規改正(案)</li> </ul> </li> <li>(2)兼業・兼職関連                   <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の兼業及び兼職に関する規程改正(案)</li> <li>②常勤役員の兼業及び兼職に関する規程制定(案)</li> </ul> </li> <li>(3)その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>臨時職員就業規則改正(案)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023(令和5)年度事業報告書について</li> <li>・今年度のグッドデザイン賞事業現況報告について</li> </ul> <p>その他</p>
第36回	2025年3月24日(月) 15:30-17:00 対面会議 会場： インターナショナル・デザイン・ リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025(令和7)年度事業計画書(案)について</li> <li>・2025(令和7)年度収支予算書(案)について</li> <li>・規程改正(案)について               <ul style="list-style-type: none"> <li>育児・介護休業規程</li> </ul> </li> <li>・人事案件(次期理事改選)</li> </ul> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年度グッドデザイン賞審査委員、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査員委嘱 について</li> </ul> <p>その他</p>

(2)理事会

回	日時・場所	議題等
第50回	2024年6月5日(水) 15:30-17:30 対面及びWEB会議 メイン会場: インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023(令和5)年度事業報告書(案)について</li> <li>・2023(令和5)年度決算報告書(案)について</li> <li>・2024(令和6)年度事業計画書改訂(案)について</li> <li>・特定資産の改定(案)について</li> <li>・2024(令和6)年度収支予算書改訂(案)について</li> <li>・規程・内規の制定、改正(案)について               <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)特定資産基金取崩し関連                   <ul style="list-style-type: none"> <li>①人材開発基金運用内規(案)</li> <li>②国際事業基金運用内規改正(案)</li> <li>③資産運用管理に関する内規改正(案)</li> <li>④会計規則改正(案)</li> </ul> </li> <li>(2)兼業・兼職関連                   <ul style="list-style-type: none"> <li>①職員の兼業及び兼職に関する規程改正(案)</li> <li>②常勤役員の兼業及び兼職に関する規程制定(案)</li> </ul> </li> <li>(3)その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>臨時職員就業規則改正(案)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・評議員会の招集(案)について</li> </ul> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度のグッドデザイン賞事業の現況について</li> <li>・常勤役員の兼業状況について</li> </ul>
第51回	2024年12月12日(木) 16:30-17:30 対面及びWEB会議 メイン会場: インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期グッドデザイン賞審査委員長及び副委員長(案)について</li> <li>・グッドデザイン・ニューホープ賞 企業パートナー・プログラム規約(案)について</li> </ul> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度事業進捗状況について</li> <li>・次期理事改選について</li> <li>・「WDO等を巡る国際的なデザインの動き」について JDP国際情報アドバイザー 太刀川 英輔 氏</li> </ul> <p>その他</p>
第52回	2025年3月6日(木) 15:30-17:00 対面及びWEB会議 メイン会場:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025(令和7)年度事業計画書(案)について</li> <li>2025年度グッドデザイン賞開催要綱(案)、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞開催要綱(案)、グッドデザイン・ニューホープ賞開催要綱(案)を含む</li> <li>・2025年度グッドデザイン賞審査委員委嘱(案)、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱(案)並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査委員委嘱(案)について</li> <li>・2025(令和7)年度収支予算書(案)について</li> <li>・規程改正(案)について               <ul style="list-style-type: none"> <li>育児・介護休業規程</li> </ul> </li> <li>・評議員会の招集(案)について</li> </ul> <p>その他</p>

### (3)会計監査等

#### ①監事監査:2024年6月3日(月)

目的:2023(令和5)年度事業報告書(案)、2023(令和5)年度決算報告書(案)

#### ②監査法人監査:EY 新日本有限責任監査法人会計監査

(期末監査)

2024年5月11日(土)、15日(水)、16日(木)、17日(金)、24日(金)、27日(月)、30日(木)

当会会議室

目的:2023(令和5)年度決算処理

(期中監査)

2024年10月4日(金)、12月6日(金)

2025年2月3日(月)、3月5日(水)、4月2日(水) 当会会議室

目的:2024(令和6)年度会計処理

## 2. 賛助会員の現状について

2024年度末の賛助会員及び情報会員数は170。(会費は広く公益事業に役立てている。)

近年は、会員企業等の経費削減や組織改編により会員数が漸減傾向にあり、2024年度は8団体より退会届が提出されたが、7団体より新規加入の申し込みがあった。

## 3. 後援、協賛事業について

2024年度に当会が後援並びに協賛、協力の名義を提供した外部企画は、40団体延べ49件に協力している。

### (1)供与先内訳

自治体及び その関連機関	デザイン専門団体	業界団体	民間企業	教育機関	海外機関	任意団体
12	7	10	11	2	6	1

### (2)事業内訳

デザイン展	見本市	デザインコンペ	セミナー・ワークショップ等	会議	その他
8	9	10	20	2	0

## 4. グッドデザイン・フェローについて

2024年度の贈呈者はなし。

## 5. 業務管理・調整について(規程、内規、業務調整等の実施)

### (1) 各種規程・内規等の新設及び改正

年月日	規程等	実施事項	概要
2024年6月20日	国際事業基金運用内規	改正	第3条の基本方針に当該金融資産を取り崩すことができる旨を明記。  評議員会で承認された取崩し計画に基づいて取り崩すことを規定。  第6条の「改廃・変更」について、評議員会の承認事項に変更。
		廃止	「国際事業運営強化積立資産」の設定承認により廃止
	特定資産「国際運営強化積立資産」運用要領	制定	目的、積立方法、積立額、取崩方法、目的外と崩しの要件について規定
	人材開発基金運用内規	制定	国際事業基金運用内規と同様の内容を制定
		廃止	「人材開発運営強化積立資産」の設定承認により廃止
	特定資産「人材開発運営強化積立資産」運用要領	制定	目的、積立方法、積立額、取崩方法、目的外と崩しの要件について規定
	特定資産「公益目的事業運営強化積立資産」運用要領	制定	目的、積立方法、積立額、取崩方法、目的外と崩しの要件について規定
	資産運用管理に関する内規	改正	第3条の「退職給与引当金」を「退職給付引当資産」に修正。「人材開発基金、国際事業基金」を削除。
会計規則	改正	第4条第3項の「郵便貯金」を削除。  第30条第3項の「その他これらに準ずるものとする」を「「その他固定資産に区別する」に改正。  第33条第2項に「短期借入金」を追加。第3項に「長期借入金」を追加。	

年月日	規程等	実施事項	概要
2024年6月20日	職員の兼業及び兼職に関する規程	改正	<p>第3条定義について限定的な書き振りを見直し。</p> <p>第4条、第10条の届出、申請に際し、理事長宛て依頼状等の書面を添付することを明記。</p> <p>第7条自営の兼業について、理事長の許可を受ける必要がある業務内容を明示。</p> <p>第11条に兼業及び兼職の要件を明示。</p> <p>第12条 兼業する時間は原則として勤務時間外とすることを明示。</p> <p>第14条 情報管理、第15条 内容に変更が生じた場合、第16条 当会の免責 について新たに規定。</p>
	常勤役員の兼業及び兼職に関する規程	制定	兼業状況について年1回理事会に報告することを規定。その他は、職員の兼業及び兼職に関する規程に準じた内容。
	臨時職員就業規則	改正	現状に合わせた見直し。第2条(1)契約A型とする者の週実働時間を28時間以内から19時間以内に変更。
2025年12月12日	グッドデザイン・ニューホープ賞企業パートナー・プログラム規約	制定	企業パートナー・プログラムの運営及び参加に関する事項を規定。
2025年3月24日	育児・介護休業規程	改正	2025年4月1日の育児・介護休業法改正に基づき、第14条子の看護休暇、第15条介護休暇、第16条育児・介護のための所定外労働の制限について改正。

## (2)各種業務調整

2023年10月、今後の事業を展開するに当たって目指すべき方向性を示すパーパス(デザインを、一人ひとりの力に。)を策定するとともに、2030年までに実行する事業方針として

- ・DESIGN PLAYGROUND
- ・DESIGN INSTITUTE
- ・DESIGN from JAPAN

という3つを打ち出し、具体的なアクションプランを定めた。

2024年度は、職員への浸透を図るため、役職員によるワークショップを12月に実施し、浸透させるための効果的な方法を議論した。その結果を踏まえ、パーパス・事業指針・行動指針・グッドデザイン賞の日程を記載した「卓上カレンダー」を制作することとなった。

(役員研修、職員研修)

2024年度は下記の研修を実施した。

①役員研修

2024年12月～2025年1月 eラーニング  
・あなたは大丈夫？パワハラグレーゾーンのわかるコース

②職員研修

2024年4月8日～9日 新入社員研修基礎実務2日コース  
2024年12月～2025年1月 eラーニング  
・最新事例に学ぶ企業倫理・コンプライアンス実践コース  
・あなたは大丈夫？パワハラグレーゾーンのわかるコース

(特許庁との人事交流)

官民交流を活用し、特許庁意匠審査官1名(2023年度から2年間)を交流受入れ、2025年3月末をもって任期が満了した。2025年度も新たに1名(任期は2年間)の受入れを実施。

## 6. 行政当局等による監査、立入検査等について

2024年度の実施はなかった。

## 7. 資産管理の現状

(1)保有資産

今年度は満期償還債券が1本、新規購入債券が2本、入替による売却・購入が各5本。評価額は、前年度末に対して、基本財産・特定資産・投資有価証券ともに減少した。運用利息は、前年度に対し増加した。

(2)基本財産・特定資産の構成割合と評価額・運用利息

	資産割合			評価額(円) (3.31.現在)	利息(円) (年間)
	預金	仕組債	国債・地方債・社債等		
2020年度	3.2%	6.5%	90.3%	1,546,854,820	23,413,060
2021年度	3.3%	5.9%	90.8%	1,492,527,410	21,438,589
2022年度	3.5%	6.0%	90.5%	1,408,956,150	20,904,977
2023年度	11.0%	5.9%	83.1%	1,350,793,170	20,271,643
2024年度	8.2%	19.4%	72.4%	1,256,706,600	26,327,931

## 8. 国内外におけるGマーク関連商標登録の現状

商品分野における「G マーク」商標登録に加え、国外の役務分野における「G マーク」商標登録に向けた方針を継続した。

### (1)国内

2023 年度に開催した「WDO 世界デザイン会議東京 2023」事業で使用したロゴマークによる商標出願が 4 区分にて登録された。(登録日:2024 年 7 月 2 日)

### (2)海外

- ①台湾「G マーク」商標(登録番号:第 0169310 号)の登録期間満了を迎えたため、10 年間の登録更新手続きを行った。
- ②2020 年 10 月に海外 10 か国・地域において申請していた、第 35 類及び第 42 類における「G マークとロゴ GOOD DESIGN」の商標出願は、現在もアメリカ、タイにおいて審査継続中。アメリカでは、35 類の拒絶が確定となったが 42 類のみ登録される見通しとなり、手続き補正書の提出により 42 類のみ登録を申請した。過去の状況は、2021 年 9 月にトルコ、ドイツ、シンガポール、香港、台湾において登録、2022 年 3 月にインド登録断念、2022 年 8 月にインドネシア、2022 年 10 月に韓国にて登録済み。
- ③2014 年 7 月にインドへ申請していた「G マーク」証明商標(26 区分に対して申請)に対し、2023 年度中に再審査のための第二次審査報告書への回答を提出したが、2024 年度内に動きはなく、現在も審査継続中。
- ④香港「G マーク」商標(登録番号:第 302941191 号)は香港特許庁の区分表改定のため、一部の登録指定商品の区分変更があった。登録区分書き換えによる登録区分数の変更はなかった。

## 9. 業務効率化、DXの推進

2022 年度に作成した IT 中期計画(2022 年～2024 年の 3 か年計画)に沿って、業務効率向上、コンプライアンス向上、セキュリティ強化、IT インフラ安定化、IT-BCP 対応等を着実に実施し、計画施策の殆どを完了できた。2024 年度は、特にセキュリティ強化、IT 資産管理向上、IT-BCP 強化を目的に活動した。セキュリティ強化については、EDR+SOC 機能(Security Operation Center)の導入及び標的型メールの訓練を実施、IT 資産管理向上については SKYSEA 導入により資産管理精度の向上を、さらに IT-BCP についてはネットワークルートの二重化を目的にゲスト用 wifi 環境の安定化を実施した。

また老朽化対策として、入退室管理システムと PBX(電話環境)のリニューアルを実施するとともに、電話の自動応答システムを導入し、顧客対応向上とともに役職員の電話応答工数削減を実現した。

IT 中計で計画した大きな施策は完了したため、2025 年度以降は、これまで推進した施策をベースにして、wifi アクセスの認証強化、各種 IT 関連アカウントの管理方法変更、環境に合致した IT 関連規程の見直しを中心に活動する。

【2022年～2024年 IT 中期計画実績】

分類	2022年		2023年		2024年
	上	下	上	下	
事業PF	事業部で対応				
経営PF	AV導入(ESET) ワークフロー(楽楽精算) 経費精算(楽楽精算) マイナンバー管理(オフィスステーション)		インボイス制度対応		電帳法対応
法人PF	ファイル共有(Box) コラボレーション(Garoon)		UTM・SOC導入(Fortigate) リモートアクセス強化(BIG-IP) EDR(FireEye)導入 複合機リニューアル(富士フイルム) 電子契約(BoxSign)		ネットワーク再構築 MacPC購入プロセス変更(Too社) Adobeライセンス集約(Too社) リエゾン、ゲスト用ネットワーク再構築 入退室管理システムリニューアル NGAV導入(CrowdStrike) IT資産管理(SKYSEA) Filemakerライセンス集約(Too社) PBX、電話リニューアル
<p>【用語説明】</p> <p>AV : Anti Virus            UTM : Unified Threat Management            SOC : Security operations center            EDR : Endpoint Detection and Response            NGAV : Next Generation Anti Virus            PBX : Private Branch Exchange(私設電話交換機)            BCP : Business Continuity Plan(事業継続計画)</p>					
ITガバナンス	ITツール利用ガイドライン ITセキュリティガイドライン		IT-BCPマニュアル		標的型メール訓練

【2025年～2027年 IT 中計】

初回2022～2024で計画したIT中計の計画の約85%が完了。  
2025～2027中計では大きな施策は無い。

1. 推進してきた施策の定着化・機能拡大と環境維持体制の構築
2. サイバーリスクへの対策継続と教育の強化
3. IT-BCP環境の維持とガバナンス、コンプライアンス強化

分類	2025年		2026年		2027年
	上	下	上	下	
事業PF	事業部で実施(定期的報告をすることを提案)				
経営PF	ワークフロー追加検討(各種申請類等) ノーコードツール導入検討 ツール試行と評価				
法人PF	セキュリティ強化(BoxのIPアドレス制限領域拡大、事務所wifiMACアドレス制限追加、教育実施) 設計 設定提供 利便性、効率性、安全性維持・向上(サイバーリスク対応環境、IT資産管理環境維持)				
ガバナンス	IT資産管理運用確立 IT関連規程類再見直し		IT自己監査準備 IT自己監査試行		
定着化	教育(セキュリティ、BCP等) 後任探索、育成、引継ぎ準備				